

WEEKLY REPORT

2020年1月22日 (第2487回)



(イラスト) 宜野湾市に伝わる羽衣伝説のイメージ

R | 会長：マーク・ダニエル・マローニー
2019-20年度R | 会長テーマ
Rotary connects the world

ロータリーは
世界をつなぐ

GINOWAN ROTARY CLUB

国際ロータリー第2580地区
宜野湾ロータリークラブ



クラブテーマ：会員の、会員の為の、会員による楽しいクラブ作り

例会場：ラグナガーデンホテル tel:098-897-2121 会長：新垣 真由美
例会日：毎週水曜日 12:30～13:30 幹事：新垣 裕樹
事務所：宜野湾市大山2-9-25-2F 広報・会報委員長：阿嘉 よね子
TEL:098-898-9000 FAX:098-898-0003 E-mail:info@ginowan-rc.org



ホームページ [宜野湾ロータリークラブ](#) [検索](#)

>>> 四つのテスト <<<～言行はこれに照らしてから～

- 1. 真実かどうか
- 2. みんなに公平か
- 3. 好意と友情を深めるか
- 4. みんなのためになるかどうか

1月【職業奉仕月間】

*** 第2486回 (2019年12月18日) 例会報告 ***

■例会プログラム

- 司 会 : 許田 英子
- 開 会 点 鐘 : 新垣会長
- ゲストビジター紹介 : 平仲 絢子
- 斉 唱 : 奉仕の理想・四つのテスト
- ソングリーダー : 池田 彩織
- IO思想推進宣言 : 大城 英明
- 会長挨拶 : 新垣会長
- 幹事報告 : 新垣幹事
- 委員会報告 : 大城 英明
- ココBOX : 伊禮 文雄
- 出席報告 : 伊禮 文雄
- 閉 会 点 鐘 : 新垣会長



■会長挨拶

■新垣会長



皆様こんにちは。私の本業は携帯電話販売業ですが、ニュースなどでご存知の通り、先週、棒携帯電話キャリアショップにおいて、お客様を大変侮辱する内容をメモに記載した上、そのメモを誤ってお客様本人に渡してしまうというあり得ない事案が発生いたしました。その後 SNS に詳細が投稿され、連日ワイドショー等で大きく報じられる事となりその結果、当該ショップは閉店寸前まで追い込まれ、対応した店員はネットで本名や顔写真が拡散され、誹謗中傷を受けて大きな代償を払う事態となりました。更に、日々一生懸命お客様対応を行っている携帯電話ショップのスタッフまで同じような対応を行っているかのような報道をされ大変残念でなりません。

日本全国に8,400程のキャリアショップが存在しており、うち沖縄県内には75の au ショップがあります。その au ショップ代理店の殆どが地域密着型の中小企業で地域のお客様を大事に思う気持ちはどのショップも同じです。しかし最近では携帯電話の販売だけで利益を出す事が難しい為、クレジットカード、電気、インターネット回線等、本来の商品ではないものを提案するというノルマが課せられ、お客様のご要望に沿って喜んでもらえる”接客”から利益優先で不必要な商材を販売する”対応”にシフトした事が今回の騒動の要因のひとつである事は確かです。

今月は職業奉仕月間です。自分の仕事に誇りを持つことの意味を今一度考えて日々の業務に取り組んでいきたいと思っております。そしてロータリアンとして、職業を通じて社会貢献とは何かを考えたいと思っております。そして今後この様な騒動が再発しない事を願っております。

■ゲスト・ビジター紹介 平仲絢子会員

- ☆ゲスト
 - ・宮城邦治様 (沖縄国際大学名誉教授)
- ★ビジター
 - ・徳物葉子様 (札幌はまなすRC)



■ニコニコの趣旨

■今日はお誕生日祝って頂きありがとうございます。(新垣 真由美)

■宮城教授、闘牛についての歴史大変勉強になりました。誕生祝い素晴らしい皆様からの気持ち感謝しております。有り難う御座居ました。(高橋 清一郎)

■「ウシオーラセイ」の歴史等興味深く、楽しく拝聴させて頂きました。有難うございました。(仲吉 サダ子)

■新年おめでとうございます。新一年生のランドセルに寄付して下さい。宮城先生、卓話ありがとうございます。為になりました。(池田 彩織)

■1月誕生月おめでとう！宮城先生卓話ありがとうございます。幼少の頃の闘牛を思い出しました。(仲村 真二)

■宮城先生、今日の卓話「ウシオーラセイ」は大変貴重な内容でした。ありがとうございました。(茂宮 隆次)

前回累計	¥190,000	¥39,749
第2486回	¥10,000	¥3,387
累計	¥200,000	¥43,136

《1月ロータリー為替レート \$1=¥110》

■出席報告

出席報告	前回	今回	
例会NO.	2485	2486	
例会日	1月8日	1月15日	
会員数	35	35	
出席者数	25	26	
出席免除者欠席数	2	1	
算定用会員数	33	34	
出席率	75.76%	76.47%	
メイクアップ	一般会員	2	3
	免除会員		
訂正出席者数	27	29	
訂正算定分母	33	34	
訂正出席率	81.82%	85.29%	

■幹事報告

■新垣幹事



【理事会報告】

- ①後期会費について
- ②米山奨学生のご世話クラブ引き受け及びカウンセラーの選任について
- ③「沖縄子どもの未来県民会議」への募金について
- ④「子どもたちに笑顔（ランドセルを贈るプロジェクト）」への寄付について
- ⑤東京東村山RCとの交流について（2/12・2/13）
- ⑥圓通RCとの友好クラブ締結について
- ⑦中城村・北中城村ホストタウン事業運営に関する協賛ごについて

【回覧】

在宅医療・介護連携推進事業
宜野湾市講演会のご案内

大切な人へ最後の想いを伝えよう。
今から終活
～人生会議とは～

講師：新屋 洋平氏
中部徳洲会病院 在宅緩和ケア科医長
日時：2月8日（土）14：30～16：30
場所：宜野湾マリン支援センター
入場無料：どなたでもお気軽にどうぞ！

1月誕生日おめでとうございます！



写真左から

高橋 清一郎会員 13日
新垣 真由美会員 23日
平仲 絢子会員 17日

■例会予定

<本日>

◆第2487回1月22日（水）

会員卓話：比嘉直子会員

演題：今年度を占う

◆1月29日（水） 特別休会
（定款第7条第1節d項適用）

◆第2488回2月5日（水）理事会
ユンタク会

◆2月12日（水） 振替休会
2/13開催地区大会と振替

◆第2489回2月19日（水）
地区大会報告

◆第2490回2月26日（水）
卓話：安里政晃氏（地区ロータリー財団委員）
演題：ロータリー財団について（予定）

◆第2491回3月4日（水） 理事会

◆第2492回3月11日（水）
水と衛生月間卓話

◆第2493回3月18日（水）
※例会場は13階のパドルです。

◆第2494回3月25日（水）
PETS報告会

■他クラブ・地区からのお知らせ

第1回「沖縄学友の集い」のご案内

日時：2月11日（火）17：30～20：30

会場：ホテル・ロコアナハ2階アレッタ

会費：5,000円（ロータリアン）

主旨：地区主催のロータリーデーに合わせて
在沖縄のインターアクターを中心と
した国際通りでの清掃活動の慰労会を
兼ねての学友の集いを企画

■報告

●RLIパートⅡ沖縄講習会受講者名簿

- 1.大城英明（ロータリー情報研修委員長）
- 2.岡江保彦（会長エレクト）
- 3.新垣裕輝（幹事）

●日台ロータリー親善会議参加者名簿

- 1.宮城 富夫（沖縄分区ガバナー補佐）
- 2.新垣 真由美（会長）
- 3.新垣 裕輝（幹事）
- 4.岡江 保彦（会長エレクト）
- 5.白間 弘造（プログラム委員長）
- 6.平仲 絢子（副幹事）
- 7.仲宗根 義次（社会奉仕委員）
- 8.仲本 真由美（ 〃 ）



卓話者の紹介 吉田明正会員



宮城邦治名誉教授

島人を魅了する闘牛（ウシオーラセー）

1) 沖縄の闘牛の歴史

沖縄における「闘牛」の歴史は以外にも新しく、廃藩置県後に積極的に奨励された「原山勝負」を契機に、明治初期～中期（1870～80年代）あたりを起源とするものと考えられる（比嘉 1994）。また、その呼称については、明治44（1911）年の新聞記事には「牛闘」と記して「うしあわせ」とルビをふっているが、現在呼称される方言の「ウシオーラセー」を言い当てたものだと考えられる。沖縄では「ケンカをさせること」を「オーラスン」「オーラセー」ということから「牛闘」は正に「牛を闘わせる」「ウシオーラセー」ということになる。また、「牛闘」の表記は大正3（1914）年以降の新聞では「闘牛」という表記に代わり、今日まで呼称されている。

2) 人々はどのようにして闘牛を楽しんだか

明治期に始まった闘牛は、農村社会であった沖縄では「原山勝負」「畦払い（アブシバレー、虫送り）」の時期に盛んに開催されるようになり、庶民大衆の一大娯楽となっていく。これまで集落の広場で行なわれていた闘牛も、明治18（1885）年頃には「すり鉢形」の闘牛場（ウシナー）が作られ人々はやや高め場所から安心して闘牛を観戦できるようになった。やがて農村娯楽として無料であった闘牛大会にも大きな変化がもたらされる。世間の情報が豊富な牛バクヨー（家畜商）の中に、各地で頻りに行なわれている闘牛をビジネス的な見世物として価値をもたせる人々がいた。昭和9（1934）年、牛マチ（牛のセリ市）があった比謝川湖畔に松材などを使った観戦席にムシロを敷いた仮設の闘牛場を作り、初めて観戦料を徴収する闘牛大会が開催された。当時の対戦は、沖縄闘牛会で一番人気の「楚辺アヨー」という猛牛と、読谷村在住の有名な牛バクヨーであった比嘉憲永氏が大島（徳之島）から買付けた「ワナ号」との闘いとなりました。因みに、当時の小学校の教員の月給が30円に対して「ワナ号」は400円で買いつけて来たというから如何に高価であったか計り知れる。時の名牛2頭の闘いには約8000人余の観衆が詰めかけたと伝聞されている。

3) 戦後の沖縄闘牛

「鉄の暴風」ともいわれ20万人余の人々が命を落とした沖縄戦は1945年に終結するが、灰燼に帰した沖縄全土にあって、幸いにして生き残った人々を慰撫したのはサンシンの音色であり、芝居や踊りであった。そして人々の顔から戦争の疲弊が消え少ばかり笑顔が戻った頃、沖縄の人々を魅了してきたウシオーラセー（闘牛）は突然にやって来た。終戦から1年後、1946（昭和21）年5月、石川市の東恩納闘牛場に朝早くから詰めかけた3000人余の観衆は明るい笑顔と喜び満ち溢れていた。戦渦を逃れ、津々浦々から集められた16頭で開かれた闘牛大会は、2組の取り組みが終了し3組目が熱戦を展開している最中、突然10人近い米軍憲兵が銃を振りかざしながら闘牛場内に乱入し、闘牛の中止を命令した。突然の出来事に観衆は逃げ惑い場内は騒然としたが、米軍憲兵は主催者の「米軍政府から了解を取り付けている」と抗議したにも関わらず「アメリカでは動物虐待罪があるので、まかりならん」「琉球人の集団行動を禁じられている」と威嚇高にはねつけ強制的に中止させた（前宮、1972年）。しかしながら、沖縄の人々の闘牛への思いは冷めず、禁止から1年後の1947年には読谷村の愛牛家、幸喜文庫、比嘉憲栄氏らの尽力により闘牛復活の炎が燃えさかり、与那城村、知念村などへと飛び火すると米軍政府も黙認せざるをえなくなった。真の沖縄一を競う第一回全島闘牛大会は1962年11月4日美里村の松本闘牛場で行われ、万余の観衆が詰めかけ大盛況となった。沖縄一の栄冠に輝いた「宇堅トラムラー」を始め「荒岩号」「大湾ワイー」「大島全島一」「グラマン」と名のはせた猛牛たちが活躍しておりました。中でも、この60年代の沖縄闘牛を引率した不世出の名牛「ゆかり号」の通算戦歴は45勝4敗、未だに闘牛ファンに語られる黄金伝説である。

4) 復帰後の沖縄闘牛

昭和47（1972）年5月、沖縄の祖国復帰が実現すると、これまでの牧歌的な社会は多様な価値観と市場社会の現実さらされるようになった。戦後の沖縄の人々の三大娯楽であった沖縄芝居と映画、そして闘牛は「ヤマト世」の大きな波に飲み込まれながら呻吟していた。笑いと涙で沖縄の人々を鼓舞した沖縄芝居の劇団は、その多くが人々の前から姿を消し、街中の娯楽スポットであった映画館もやがて閉館に追い込まれていった。そんな中、気を吐いたのは人々を魅了してしまない闘牛（ウシオーラセー）であった。日本経済が世界中を席卷した90年代には、闘牛大会がほぼ毎日曜日に行われ、第二次闘牛ブームといわれる程であった。このような闘牛を支えているのは、古くは年長者であったが、今では20～30代の若者たちがグループで牛を購入する事もあり、世代を超え、地域を超えて多くの人々に歓喜と感動を与えている。12年前に建設された「ドーム闘牛場」は新たな闘牛ファンを生み出し、「闘牛女子」なる妙齢な女性たちが闘牛を観戦するほどになった。ウシオーラセーは島人を魅了して離さないようだ。

職業宣言 1. 自分の仕事に誇りを持つことから、職業奉仕は始まる。